

泰平の眠りを覚ました幕末維新始まりの地

浦賀

周辺

そのペリー公園にあるペリー上陸記念碑。
に上陸したペリーは浦賀奉行所の役人たちと
交渉を始めることになる。

ペリー率いる4隻の黒船が来航し、
開国のきっかけとなった浦賀。
歴史の表舞台を飾った人々の足跡が、
いまでも数多く残されている。
当時と変わらぬ潮風を感じつつ散策を楽しもう。

取材・文＝小椋新太郎

嘉永6年（1853）6月3日、アメリカ合衆国東
インド艦隊司令官のペリー提督が入港した地、浦賀。
「幕末」という時代の始まりをもたらすことになっ
たこの街には、ペリーが来航した際に折衝の任に当
たった中島三郎助を始め、多くの偉人にまつわる史
跡が残されている。

京急本線浦賀駅。駅前にそそり立つトタンに囲ま
れた巨大な工場が、通称浦賀ドックと呼ばれる造船
所跡。残念ながら現在は閉鎖されてしまったため、
中に入ることはできないが、外からでもクレーンや堀
の向こうのドックを見ることができる。

クレーンの反対側の坂道を上ったところにある浦
賀文化センターでは、鳳凰丸や咸臨丸、ペリー艦隊の
船舶の模型を展示。中島三郎助に関係した資料も
見ることができる。

そのまま海に沿って進むと、右手に大きな森が現
れる。南消防署浦賀出張所から路地に入り、少し
歩くと見えるのが愛宕山公園の入り口。ここには中
島三郎助の招魂碑があり、さらに足を延ばせば、三
郎助が勤めた浦賀奉行所跡も見ることができる。

対岸の東浦賀へは、浦賀港を横断する「浦賀の渡
し」に乗船して移動。この渡し船は江戸時代から住
民の足として使われ、その航路は横須賀市の市道に
もなっている。

東浦賀へ渡ってしばらく直進すると、東叶神社が
現れる。背後にある明神山には勝海舟断食の碑が
あり、山を囲む自然林の景色も素晴らしい。

帰りは海を背に、浦賀ドック跡を指して駅へ向
かう。余裕があれば、少し足を延ばして観音崎公園
に寄ってみるのも良いだろう。公園内には東京湾要
塞の中心として築かれた台場が残っており、開国後、

Scene of
Bakumatsu meiji 5
: Uraga



久里浜エリア

日本上陸の第一歩をしるした地
ペリー公園



横須賀市の市制80周年
を記念し、昭和62年に開
館したペリー記念館。

アメリカ海軍提督ペリーが、久里浜海岸に上陸したことを記念して明治34年(1901)に建立されたペリー上陸記念碑がある。碑文は伊藤博文の筆によるもの。また、公園内にはペリー記念館もあり、館内には黒船来航を再現したジオラマ模型などを展示している。●京急久里浜線京急久里浜駅東口徒歩20分。ペリー記念館は9時～16時30分、月(祝の場合は翌)休。神奈川県横須賀市久里浜7-14 ☎046・834・7531

当時の石垣をそのまま使って復元
燈明堂跡(千代ヶ崎台場跡)



灯台の先駆けとして、岬の突端に築かれていた燈明堂。慶安元年(1648)、幕府の命で築造。明治5年(1872)の廃止まで、200年以上にわたって海上の安全を守っていた。平成元年に復元。その先には、幕末に幕府の命により江戸湾防備のために築かれた千代ヶ崎台場跡が残る。●京急本線浦賀駅から京浜急行バス「京急久里浜」行き6分の「燈明堂入口」下車、徒歩5分。神奈川県横須賀市西浦賀6-46

浦賀湾を臨む風格のある佇まい
東叶神社(叶明神社・叶神社)



養和元年(1181)に京都神護寺の僧・文覚が源家の再興を発願し、石清水八幡宮の霊を迎えたことに始まる。その後、源頼朝によって願いが叶ったことから、叶大明神と呼ばれるようになった。社務所の裏には、勝海舟が断食の前に水垢離をした井戸がある。山頂にある本殿は昭和56年に再建。●京急本線浦賀駅徒歩20分。神奈川県横須賀市東浦賀2-21-25 ☎046・841・5300

山全体が県指定の天然記念物
明神山



東叶神社の背後にあり、拝殿脇の石段を上っていくと勝海舟断食の碑がある。幕末に遣米使節の護衛艦となった咸臨丸の艦長として、太平洋横断を成し遂げた勝海舟が、航海の安全を祈り山頂で断食をしたと伝えられている。また、大正9年(1920)に建立された慰霊塔には、浦賀ドックで殉じた307柱の御霊が祀られている。●京急本線浦賀駅徒歩25分。神奈川県横須賀市東浦賀2丁目付近

幕末の歴史に欠かせない旅籠
吉田松陰・佐久間象山相会処(徳田屋跡)の碑



徳田屋は、文化8年(1811)に幕府の許可を得た御用御宿で、大正時代まで続いた浦賀を代表する旅館。数多くの武士や文化人が宿泊しており、ペリー来航の際には、吉田松陰が徳田屋の主人からの情報をもとに、師の佐久間象山らと今後の対応策を協議したことを日記に残している。建物は、大正12年(1923)の関東大震災で倒壊。●京急本線浦賀駅徒歩18分。神奈川県横須賀市東浦賀2-7付近

観音崎灯台を囲む東京湾の要衝

観音崎砲台跡(観音崎公園)



文化9年(1812)建造。明治時代には観音崎一帯が要塞となり、一般人の立ち入りは禁止となっていた。現在は、北門第一・第二砲台跡や三軒家砲台跡などを見ることができる。また、公園内には平成21年に復元された木製の砲台も展示。●京急本線馬堀海岸駅から湘南京急バス「観音崎」行き15分の終点下車、徒歩5分(北門第一砲台跡)。神奈川県横須賀市鴨居4-1120

観音崎エリア

日本で最初に

点灯した洋式灯台

観音崎灯台(観音崎公園)



慶応2年(1866)、英米仏蘭4カ国との江戸条約によって幕府が建設を約束した8カ所の灯台のひとつ。現在の灯台は三代目で、大正14年(1925)6月1日に再建された。●京急本線馬堀海岸駅から湘南京急バス「観音崎」行き15分の終点下車、徒歩10分。9時～17時(10～3月は～16時)、不定休。入場200円。神奈川県横須賀市鴨居4-1187 ☎046・841・0311

23基の墓石がある

市指定史跡

会津藩士の墓(腰越墓地)



文化7年(1810)からの約10年間、江戸を守る海上防備のために、観音崎や腰越陣屋に会津藩士が詰っていた。その際亡くなった藩士や家族が葬られている。沿岸警備の任務が浦賀奉行に移ると、会津藩はその任を解かれたが、ペリーの来航に合わせて房総半島などにも派遣された。●京急本線浦賀駅から湘南京急バス「観音崎」行き10分の「腰越」下車、徒歩5分。神奈川県横須賀市鴨居3-24付近

